エコステーション フライブルグ ドイツ

1998.2000年視察

このエコステーションは1986年に開催された庭園博覧会の記念施設として建設されたが、一年後に焼失し、その4年後に再建された。

Bund (自然環境保護連盟) が事業主体で全国に24万人の会員がいる。全ドイツに支部があるが、ボランティアの他、50人の職員がいる。

活動のテーマは

- ●ごみを出さない
- ●ゴミを燃やさない
- ●遺伝子操作のある食品をつくらない
- ●省エネルギー
- ●核エネ反対

政治団体ではなく、教育的な観点で事業を進めている。



まるで封土住宅のようにみえ るエコステーションはドイツ のエコ情報発信基地である。

このエコステーションには太陽熱、太陽光発電が設置されている。 ゼミナールを開いており、日曜もオープンしている。隣につくられたエコ ガーデンではコンポストや園芸の勉強を開いている。

子供達に食物を育てることを教え、実践させる。生物的なゴミ処理、ビオトープの生態的の存在、紙の再生利用などを教える。

ここでは現在、職員が2名、自分の意志できている女性一人がいる他、名誉 会員の人たちが応援してくれている。

将来に関する投資と思っているが、資金が必要。資金に関しては4つの柱が あり

- ●ゼミナールの収入
- ●市からの援助
- ●州からの援助
- ●寄付金(50から200マルク)

援助は年々縮まるばかりだ。

太陽光発電は1000 k W / h 年規模で、余った分は50ペニヒ/ k W h で売電している。この売買価格は場所によって違い、普通は17ペニヒしか払ってくれない。また、2マルクで買ってくれるところもある。



ビオトープに面した太陽光発電パネル。

●中央に研修室があり、その天井は丸太の迫力 ある木組み。これはインディアンが使う手法で ある。

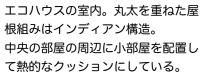
研修室の周辺に小部屋が配置され、それらが熱的なクッションになって断熱効果を生んでいる。

- ●ビオトープは都市では重要である。
- ●自然材を使っている。
- ●断熱材は粘土、セルローズ、不要になったコルクなどである。
- ●台所
- ○レンジはガスを使用。電気レンジよりCO2放 出量が少ないため。
- ○食洗機は電力使用のピークである8:30から 12:00までは使わないように、それを示す表示 をドアにつけている。その間は電力費も50ペ ニヒと高い(22時以降は12ペニヒ)
- ○省エネ電球を用いているが、この電球は一万戸の家庭に無料で配った。
- ○雨水は貯溜してトイレなどに使用している。 下水料金は高いので、雨水利用は関心が高い が、更に雨水を利用する人の料金は下げられる ことになっている。
- ○ゴミはリサイクルできるものは緑のマークが ついている。

●生活

○幼稚園の子供達に牛乳は瓶で買う、野菜は梱 包なしで買うことを教える。

> レンジはガスを使用。電気レンジよりCO2放出量が小さいため(発電効率も考慮して)。 レンジファンがないのが日本的には驚き。





庭に出るとビオトープがある。ゴミ箱に緑のマークが。



サンルームの床と壁は蓄熱性が高い



